より生産性の高い農業を目指して

高山市では冷涼な気候を生かした高冷地野菜が栽培されており、昭和40年代後半からは雨よけハウスの導入による生産量の拡大も相まって、市場で高い評価を受けてきました。しかし、全国と比べ、農家の経営規模が零細であったことから、規模拡大による生産性の高い農業と経営の安定化を望む機運が高まっていました。

そこで国は昭和63年、高山市、丹生川村、久々野町、朝日村の開発可能な未墾地を農地造成し、畑地かんがい施設を整備する国営飛騨東部開拓建設事業に着手します。

折しも、海外に目を向けると、米の輸入自由化が議論されたガット・ウルグアイラウンドが始まり、国内では昭和46年以来続く米の生産調整と米価の引き下げの渦中でした。

―山が農地に変わる―この開拓建設事業は農地造成をはじめ、幹線道路の岩滝トンネルや丹生川トンネルの新設なども含め14年間に及び、平成13年に完成。高山の高冷地野菜の経営基盤が確立されました。

●国営事業関係4市町村の推移

		昭和55年	平成12年
総人口		72,255人	77,436人
農家世帯員数		17,226人	13,939人
県内シェア	ホウレンソウ	17%	49%
	トマト	23%	34%
	ダイコン	3%	7%

出典　飛騨を拓く（飛騨東部第一開拓建設事業完工記念誌）

全国に誇れる農作物

日本一の生産量を誇るホウレンソウをはじめ、夏秋トマトや夏ダイコンなど、高冷地野菜は高山市の主力作物ですが、昼夜の寒暖差を生かした魅力あふれる農作物はこのほかにもたくさんあり、全国各地に出荷されています。

リンゴやモモを中心とした果樹やキクやバラなどの花卉（かき）をはじめ、最近では宿儺（すくな）かぼちゃやタカネコーンなどの生産も盛んです。

また、野菜農家にとって冬場の収入を補う大切な作物となっている菌床しいたけは、近年、品質の良さが認められ、しいたけの全国大会で毎年受賞しています。

さらには、古くから栽培されていた山椒やそば、えごま（あぶらえ）といった地域特産物も現在、各地で見直され、栽培や販売活動は地域の活性化につながっています。

宿儺かぼちゃ

タカネコーン

結びにあたり

高山市の農業を取り巻く環境は、担い手不足・高齢化の進展や荒廃農地の増加、環太平洋連携協定（TPP）の動向など、現在大きな岐路に立たされています。

その中、高山市の農業に魅力と希望を抱き、新たに就農する方の中には、移住された若者も毎年います。他方、飛騨のおいしいお米をブランド化し、他産地との差別化を図ることで攻めの米づくりに挑もうとする団体「飛騨高山おいしいお米プロジェクト」も精力的に活動しています。

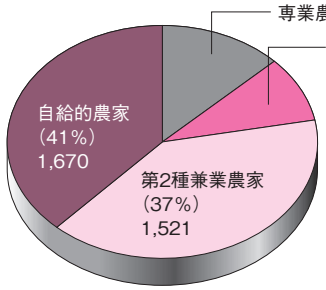
結の精神でハウスを組み立てる新規就農者

飛騨高山おいしいお米プロジェクトのプロジェクト米試食会

市では、生業（なりわい）として成り立つ高山市の農業のために、引き続き農業の基盤整備と農作物の消費拡大に向けた取り組みを進めるとともに、農業が地域の生活や文化の一部であり、人が生きるための根幹でもあることから、地産地消や食育などの取り組みも含めて、総合的に取り組んでまいります。

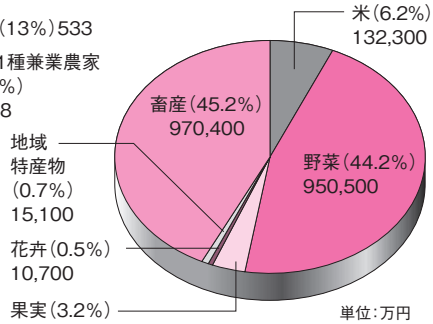
問合先　農務課　☎35-3141

●高山市の農業データ



農家戸数 4,112戸

（2015農林業センサス）



農業販売額 214億7,700万円

（市農務課調べ・平成27年）